



ファミリーニュース

編集発行

カトリック宮教会事務局広報委員会

〒491-0044 一宮市大宮1-7-1

TEL (0586) 73-4884

FAX (0586) 59-5884

mail: catholic.ichinomiya@gmail.com

ホームページ版

ヒロシマ平和巡礼

主任司祭 太田 実

私が名古屋教区の中高生会を担当していたとき、野村純一司教様から、教区の中高生と共にを広島教区で行われる平和行進と平和祈願ミサに参加したいと依頼されました。

その依頼を受け2000年から2016年まで毎年名古屋教区中高生会のヒロシマ平和巡礼を行って来ました。

日程は苛酷で、8月5日の夕方に教区センターに集合、夕食の後、夕の祈りをし、銭湯に行き、就寝します。翌朝8月6日は朝4時起床、5時にマイクロバスに乗車し、昼頃幟町教会に到着後、広島平和記念資料館と平和公園内の碑巡りを行い、夕方に平和行進に参加します。他の教区からの大勢の参加者と共に、平和公園から幟町教会まで讃美歌を歌いながら行進します。広島は夕風の町と言われ、夕方には風が止まり、大変暑く、気分が悪くなる参加者もいます。幟町教会で平和祈願ミサに与った後、銭湯で汗を流し、宿所の幼稚園に行き、夕食を取って、就寝です。8月7日は朝6時に起床、朝食後、幟町教会に移動して、8時の原爆犠牲者追悼ミサに参列し、名古屋まで戻ります。

参加する中高生たちの顔ぶれは変化していきますが、参加者たちの協力と、送り出してくださった保護者の皆さまのご理解により、16年間なんとか無事に巡礼をし続けることができました。

非常に苛酷なスケジュールですが、参加者の中で不平や不満を言った人は一人もいませんでした。2000年の参加者の中には、高校生だった片岡義博神父様もいました。また、畑村禮子さんが食事作りを手伝ってくださったことに感謝します。

先日、七尾のボランティアセンターでお会いした時、片岡神父様の叙階10周年のお祝いをいたしました。のと支援のめに献身する片岡神父様を心から頼もしく思います。

今年、久しぶりに名古屋教区中高生会でヒロシマ平和巡礼が再開されます。



能登半島ボランティア報告

信徒副代表 後藤 美由紀

2025年7月1日から3日まで、能登半島の被災地支援ボランティアに参加しました。一宮教会からは太田神父様、橋本さん、私の3名が自家用車で現地へ向かい、七尾教会を拠点に活動しました。

初日は、七尾教会に隣接する幼稚園で行われた「被災された方のために祈る一日会」に参加し、夕食にはシスターの手作り料理をいただきながら、大阪から来られた団体「シナピス」のボランティアの方々とも交流を深めました。

2日目は輪島市の重蔵神社での作業予定でしたが、雨の心配もあり屋内に変更され、倉庫内に山積みとなっていた衣類の仕分けを行いました。震災から1年半が経過し、冬物衣類の多くは処分対象となる中、支援物資も必要な時期や内容が合わなければ、現地の負担になってしまう現実を実感しました。帰り道では、傾いた電柱や倒壊したままの住宅が目に入り、復興の厳しさを感じました。



最終日は、七尾市の民間ボランティアセンター「おらっちや七尾」に集合し、私たちカリタスジャパンのチームは能登島の公費解体予定住宅でごみの分別作業を行いました。猛暑の中での作業でしたが、仲間と助け合いながら取り組んだ時間はかけがえのない経験となりました。作業後はひよっこり温泉で汗を流し、一宮へ戻りました。

今回の活動を通じて、物資の受け入れ体制や仕分け負担、解体作業の進行といった復興支援の現場課題に触れると同時に、担い手不足や人口流出といった地域の深刻な状況も実感しました。行政・民間・ボランティアが連携した持続可能な支援体制の重要性を改めて感じ、祈りと奉仕の3日間を胸に、今後もできる支援を続けていきたいと思います。



物故者追悼のミサ

日時 8月10日(日) 10:00

※ミサ後、焼香の時間を設けます。

聖母被昇天のミサ

日時 8月15日(金) 10:00

平和旬間・一宮教会行事



◆平和祈願ミサ◆

日時:8月3日(日) 10:00～

場所:カトリック一宮教会聖堂

・広島・長崎の原爆犠牲者、すべての戦争被害者、今なお戦争によって苦しめられている戦争被害者のために祈りましょう。

◆大乘公園慰霊祭◆

日時:8月3日(日) 11:15～（雨天決行）

場所:大乘公園（一宮市桜3-14-1 名鉄バス「松降2丁目」下車徒歩5分）

- ・一宮空襲犠牲者の慰霊のため、大乘公園殉難碑前でロザリオの祈り一連と「平和の祈り」を唱えます。
- ・現地集合現地解散ですが、10時ミサ後、車に乗り合わせて現地に向かいます。車を利用する方(自分の車で行く方、同乗希望の方)は事務局にお申し出下さい。
- ・各自暑さ対策(帽子、日傘等)の上、健康状態に留意してご参加下さい。

◆講演会◆

日時:8月17日(日)13:00～14:30

場所: 一宮教会1階ホール

テーマ:「手に負えない原発の老朽化～風下愛知の裁判でわかったこと～」

講師: 草地妙子さん

プロフィール

1978年名古屋市生まれ。

結婚後、夫の日本基督教団牧師としての赴任に伴い、鳥取県と山口県でそれぞれ8年間生活。山口県での滞在中、上関原発の新規建設計画に反対する運動に触れたことが、脱原発への関わりを深めるきっかけとなる。

2015年に名古屋に戻り、それ以降は福井県の老朽原発の廃炉を求めて「老朽原発40年廃炉訴訟市民の会」の共同代表として活動。

印刷版に掲載しています。
教会入口スタンドにあります。

聖母マリアの被昇天

聖母マリアの被昇天の祝日は、1950年に「無原罪の聖母が地上の生涯の終わりにからだも魂もろとも天にあげられた」と教皇ピオ12世によって定義されたように、マリアが栄光につつまれて天国へ上げられたことを祝います。

聖母マリアの被昇天は、マリアが神の母であることに由来します。マリアが神の母になったことが全世界にとって恵みであるように、マリアの被昇天は、神へと昇る全人類の被昇天のはじまりでもあるのです。

5世紀のエルサレムでは、8月15日にマリアを神を生んだ方「神の母マリア」として祝われていました。6世紀には、マリアの永眠の日として東方教会で祝われるようになりました。これが7世紀に、西方教会でも受け継がれるようになりました。

ローマ皇帝マウリチウスは、この祝日を国際日として定めたため、7世紀になるとほとんど全教会で祝われるようになり、8世紀には、「聖母の被昇天」と呼ばれるようになりました。

女子パウロ会公式ホームページより引用 https://www.pauline.or.jp/calendariocappella/cycle0/sol_0815.php

補修積立金の報告

◆現在の積立額（2025年7月20日現在）

印刷版に掲載しています。
教会入口スタンドにあります。

ご協力ありがとうございます。
これからもよろしくお願いします。

カトリック一宮教会ホームページ

<https://www.catholic-ichinomiya-church.org/>



公式LINEの登録はこちらから